

研究開発計画における指標の再検討について

1 これまでの経緯

研究開発計画において、第 5 期科学技術基本計画を踏まえ、「中目標達成状況の評価のための指標」としてアウトプット指標、アウトカム指標を検討し設定した。検討過程で、指標に統一性がない（例：中目標によって特許数がアウトプット指標に記載してあったりアウトカム指標に記載してあったりする。）などの指摘があり、研究開発計画策定後に引き続き検討することとされていた。

またその後、文部科学省の政策評価において施策ロジックモデル（研究開発計画における指標と行政事業レビューにおける指標の接合を試みたもの）を作成したところ、施策によって、指標が対応していないと考えられるものやアウトカム指標の粒度に違いがあることが明らかになった。

さらに、「中目標達成状況の評価のための指標」は、文部科学省の実施した事業に限定されているが、施策の継続や見直しを検討するプログラム評価を実施し、PDCA サイクルを効果的に回していくためには、文部科学省の施策の成果・進捗のみでなく、当該分野に関する我が国全体の状況を把握することが必要ではないかという指摘があった。

2 前回いただいた主な意見

- (1) 論文数や特許数等定量的な指標に偏りすぎると、数を出せばよいという風潮になる危険性がある。
- (2) 定性的な指標（例：国際的プレゼンス）をどう測定するのかという議論が必要ではないか。
- (3) 指標には国際的に比較のできるベンチマークとしての視点が必要ではないか。
- (4) 指標は、中目標ごとに共通の考え方で設定するか、中目標ごとにその特性を踏まえ、それぞれ委員会に検討いただくか。
- (5) 論文数や特許数のように時差のあるものを指標とする場合どのように利用するか。

3 検討すべき事項

(1) 我が国全体の状況を把握するアウトカム指標【資料 1-2】


- ① 国際的に比較のできるベンチマークとしての視点（意見 2-(3)）
- ② 中目標ごとに共通の考え方で設定するか、中目標ごとにその特性を踏まえ、それぞれ委員会に検討いただくか。（意見 2-(4)）
- ③ 指標の活用法（意見 2-(1)、(5)）



今回審議

(2) 研究開発計画のアウトプット指標、アウトカム指標

- ① ばらつきの修正（経緯）
- ② 目標と指標の関係の検証（経緯）
- ③ 定性的な指標（例：国際的プレゼンス）の設定・活用方法等（意見 2-(1)、(2)）



今後検討（引き続き専門家等の意見を聴きながら検討）